

## 富士山の火山活動解説資料(平成30年9月)

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況(図1)  
萩原監視カメラ(富士山山頂の東南東約18km)による観測では、噴気は認められません。
- ・地震や微動の発生状況(図2~3)  
火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。  
火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。
- ・地殻変動の状況(図4~5)  
GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図1 富士山 山頂部の状況(9月24日 萩原監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOC/K/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOC/K/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料(平成30年10月分)は平成30年11月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』『数値地図25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号:平29情使、第798号)。

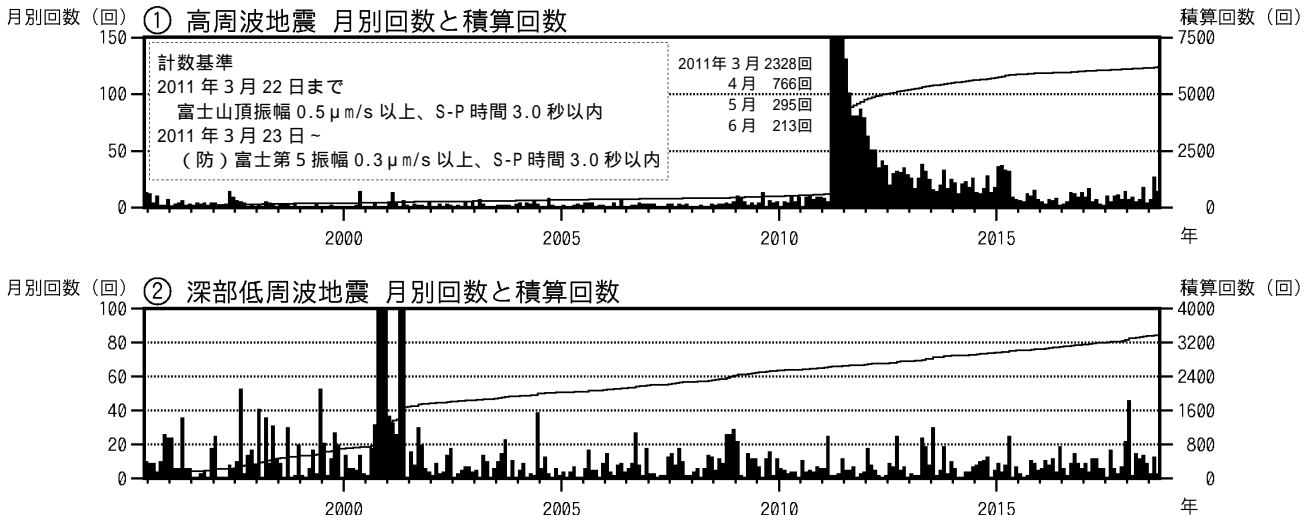


図2 富士山 月別地震回数(1995年6月1日~2018年9月30日)  
 2011年3月15日に静岡県東部(富士山の南部付近)で発生したM6.4の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。2016年以降低調に経過しています。

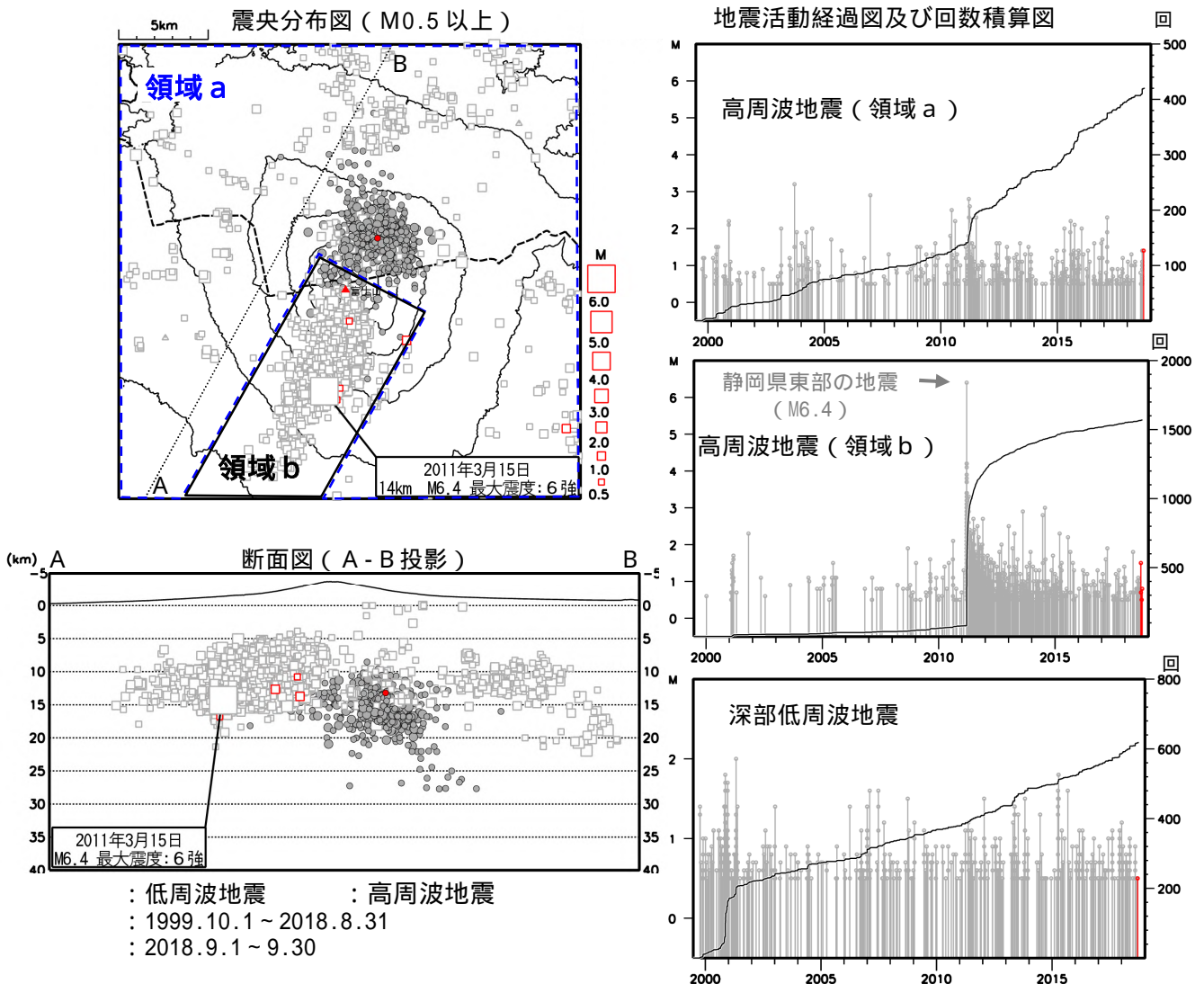
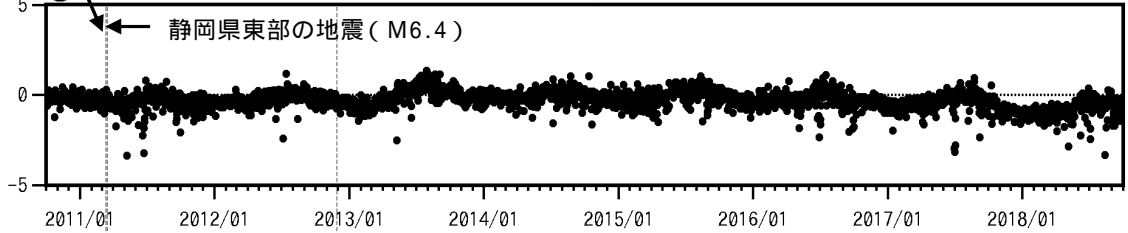


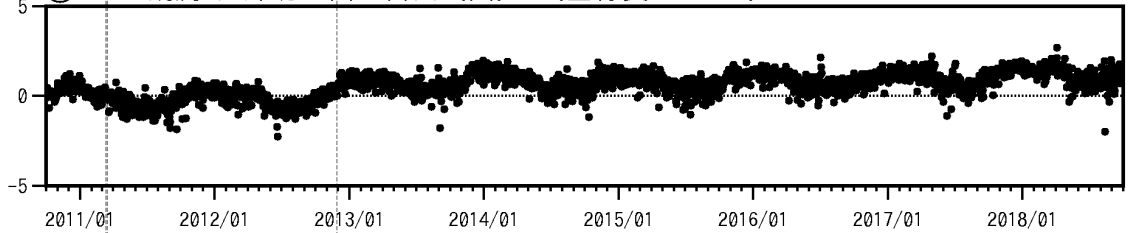
図3 富士山 広域地震観測網による山体及び周辺の地震活動(1999年10月1日~2018年9月30日)  
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
 M(マグニチュード)は地震の規模を表します。資料中のマグニチュードは一部暫定値も含まれており、後日変更することがあります。

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(M9.0)

① GNSS観測 太郎坊一富士宮1(国) (基線長 22177m)



② GNSS観測 太郎坊一富士吉田(国) (基線長 18168m)



③ GNSS観測 富士宮1(国)一富士吉田(国) (基線長 27217m)

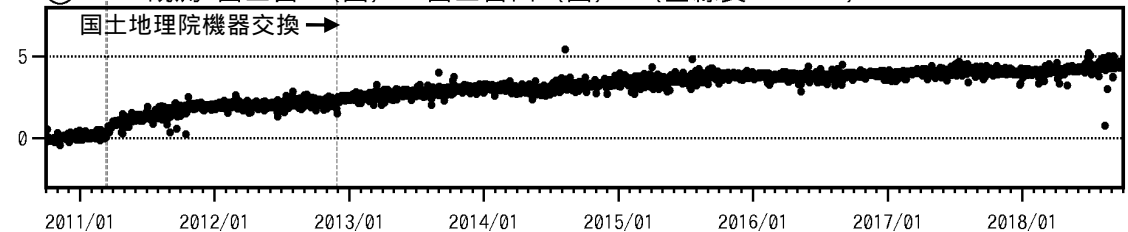
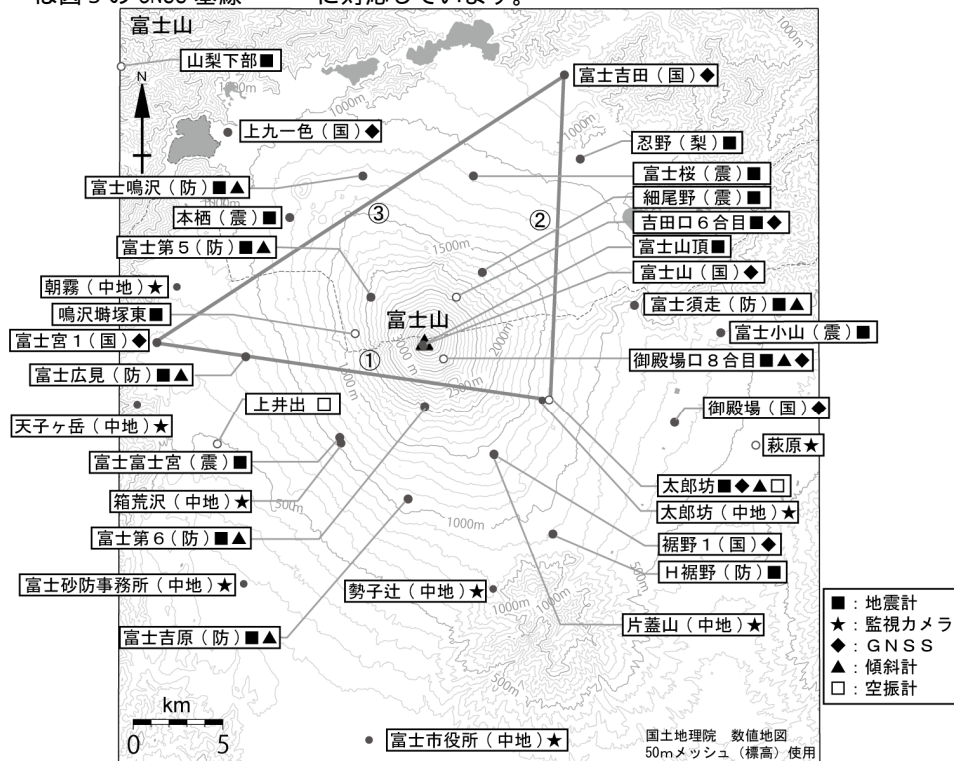


図4 富士山 GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月1日~2018年9月30日)

(国): 国土地理院

「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」及び2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震(M6.4)によるステップ状の変化を補正しています。

~ は図5のGNSS基線 ~ に対応しています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(震): 東京大学地震研究所、  
 (中地): 中部地方整備局、(梨): 山梨県

図5 富士山 観測点配置図

GNSS基線 ~ は図4の ~ に対応しています。